

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【公開番号】特開2008-1901(P2008-1901A)

【公開日】平成20年1月10日(2008.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2008-001

【出願番号】特願2007-162275(P2007-162275)

【国際特許分類】

C 08 G 65/22 (2006.01)

C 08 G 18/48 (2006.01)

C 09 D 171/00 (2006.01)

C 09 D 7/12 (2006.01)

C 09 D 201/06 (2006.01)

C 09 D 175/04 (2006.01)

C 08 F 299/02 (2006.01)

C 08 F 290/14 (2006.01)

C 08 G 18/67 (2006.01)

C 09 D 4/02 (2006.01)

【F I】

C 08 G 65/22

C 08 G 18/48 Z

C 09 D 171/00

C 09 D 7/12

C 09 D 201/06

C 09 D 175/04

C 08 F 299/02

C 08 F 290/14

C 08 G 18/67

C 09 D 4/02

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

G. Ahmedova ら、Eurasian Chem. Tech. J. 2 (2000)、第157～160頁には、BF₃・O(C₂H₅)₂触媒を用いて、グリシジルメタクリレート(GMA)とプロピレンオキシド(PO)をカチオン重合することが記載されている。得られるペンドントメタクリレート含有ポリマーは、370～600の数平均分子量(Mn)、540～1050の重量平均分子量(Mw)及び1.5～1.8の多分散度(分子量分布)を有する。出発化合物を使用することは開示されておらず、また、メタクリレート含有ポリマーの分子量及び官能価を制御する方法についての指針も記載されておらず、メタクリレート含有ポリマーについて末端基の種類又は官能価は示されていない。さらに、Ahmedova らのポリマーは、75～84%の収率で製造されたのであり、これは、16～25%の残留モノマー(PO及びGMA)に相当する。これらのモノマーは、その毒性の故に、衛生化学の面から、放射線硬化塗料で使用する前に、ポリマーから除去する必要がある。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

本発明のペンダント(メタ)アクリレート含有ポリエーテルモノオール又はポリオールは、比較的低い粘度を有しているので、多くの場合、同じ粘度にするために、従来技術のアクリレート化オリゴマーに比べ、少量の反応性希釈剤しか必要でない。ある場合には、塗料の分野の当業者に知られているように、非反応性希釈剤、例えば、アセテート、酢酸ブチル、メタノール、又は塗料技術で使用される他の非反応性希釈剤又は溶媒が望ましい。